ヤングアダルト通信

VOL143号（2017.9）
（発行：碧南市民図書館 0566-41-0894）

道をきわめる

みなさんには目指す“道”はありますか？
世の中には仕事や好きなものを突きつめて“道”をきわめた人たちがいます。
そんなさまざまな“道”をきわめた人たちの本を集めました。

『セキタン！』

須藤靖貴／著
講談社　**YF ス**

中３の夏。おれはいきなりナゾの兄ちゃんから「力士になったらどうかな」と声を掛けられる。はじめは相撲なんかに興味がなかったおれだが、やがて相撲の道に進むことを決める。

『100（ヒャッキロ）ｋｍ！』

片川優子／著
講談社　**YF カ**

高校１年のみちるは、「なんでこんなことしてるんだろう」と思いながら、三河湾を夜通し 100 キロ歩くというイベントに参加していた。こんな思いまでして歩くのは、おじさんが無理やり申し込んだから？　完歩しないと弟にバカにされるから？　それともママのため？　この 100 キロを歩けばその答えが見つかるのだろうか。

『道しるべ』

瀬戸内寂聴／著
講談社　**Y910 ミ**

戦争や大震災を体験した著者が、その経験やこれまで読んできた本に触れながら、幸せな人生を送るために欠かせない、「道しるべ」とは何なのかを語ります。

『木を植えた男』

ジャン・ジオノ／原作
フレデリック・バック／絵
あすなろ書房　**YE バ**

若者が旅の途中で出会ったのは、羊飼いの男だった。その男は、木のない土地に種を植え続けているという。やがて戦争が起こっても男は木を植え続けるのだった。

道をきわめる

『そのときあの人はいくつ？』

稲田雅子／文　池上彰／監修
クー／絵
小学館　**280 ソ**

私たちがよく知っている歴史上の人物たち１０１人を取り上げ、彼らがいくつのときに人生の転機をむかえたのかを紹介します。

『思い出をレスキューせよ！』

堀米薫／文
くもん出版　**Y396 オ**

2011 年に起きた東日本大震災では、写真や文書(もんじょ)なども被害を受けました。それらを救う活動をしていたのが、東北では数少ない「紙本・書籍保存修復士」、そして「製本家」である金野聡子(きんのさとこ)さんです。そんな金野さんの仕事を震災後の活動を通じてみていきます。

『おしろツアーズ』

東海テレビ／編
扶桑社　**Y521 オ**

東海テレビで放送された人気番組「おしろツアーズ」が本になって登場。お城好きが高じて、この番組の進行役をつとめることとなった田村淳が、この本でもお城の魅力を伝えます。

『手塚治虫　未来からの使者』

石子 順／作　手塚 治虫／画
童心社　**726 テ**

戦後のまんがを語る上で欠かすことのできない手塚治虫が、まんが家になるまでの道のりを描きます。

『地雷処理という仕事』

高山良治／著
筑摩書房　**Y319 ジ**

著者はカンボジアで地雷処理の仕事をしています。この仕事はとても危険なため、通常はプロによって行われます。しかし、著者は現地の住民とともに活動をしています。そこには、どんな思いが込められているのでしょうか。

『１８きっぷ』

朝日新聞社・朝井リョウ／著
朝日新聞出版　**Y371 ジ**

18 歳というと多くの人が高校を卒業し、何かしらの選択をするという年齢です。そんな 18 歳になった彼らに取材をし、まとめた本です。さて、彼らはどんな選択をし、新たな一歩を踏み出していったのでしょうか。

『聖(さとし)の青春』

大崎善生／作
講談社　**Y796 サ**

５歳でネフローゼという病気を発症した村上聖は治療のため入院をする。そこで出会ったのが将棋だった。聖は将棋にどんどんのめり込み、やがてプロ棋士になる。そして名人というタイトルまであと一歩というところまで来るのだが。

いろんな職業紹介します！

『なるにはＢＯＯＫＳ』シリーズ

ぺりかん社

実際の仕事の様子や、なり方などを紹介する「仕事ガイドブック」です。

担当のつぶやき

９月に入り、夏が終わったなと感じている㋡です。みなさんは、夏を満喫しましたか？私は、やり残したことが一つ。それは「かき氷」を食べること!!　あ～、来年まで食べられないのかなぁ（泣）㋡